

血液事業とは

「血液事業」とは、一般に、血液を提供していただける人を募集し、人の血液を採取し、血液製剤（人の血液又はこれから得られた物を有効成分とする医薬品。輸血用血液製剤と血漿分画製剤がある。）として、治療を必要とする患者さんのため、病院等に供給する一連の事業のことをいいます。

平成21年には、全国で1年間に約508万人（延べ数）の方々に献血の御協力をいただきました。血液は、現代の科学技術をもってしても、未だ人工的に製造することができません。また、献血いただいた血液は、患者さんの治療目的に合わせた分離・加工がなされ、輸血用血液製剤や血漿分画製剤となって、治療に使われますが、血小板製剤など、その有効期間が非常に短いものもあります。

こうしたことから、常に誰かの献血、善意が必要とされています。

血液製剤は人の血液から作られるため、ウイルス等の混入による感染のリスクがあることが知られていますが、より安全性を向上させるため、様々な取組がなされています。日本赤十字社では、献血いただいた血液に対して、血清学的検査やB型肝炎ウイルス（HBV）、C型肝炎ウイルス（HCV）及びヒト免疫不全ウイルス（HIV）の核酸増幅検査（NAT）を実施しており、平成19年1月からは全ての製剤について白血球を除去する製造方法を導入しています。また、血液製剤による感染

ミニコラム

献血者数と実際に血液製剤を投与された患者数（推定）

平成21年の献血者数は、全血採血と成分採血を合わせて、約529万人（延べ数）でした。一方、実際に血液製剤を投与された患者数を正確に把握することは現実には難しく、これまで全国規模での統計はありませんでしたが、平成21年度に日本輸血・細胞治療学会が全国的な調査（2009年輸血業務・輸血製剤年間使用量に関する総合的調査）を実施しました。その調査結果をもとに平成21年の年間輸血実施数が推計されており、約103万人となっております。

が疑われる事例が発生した場合には、遡及調査を行い、速やかに回収等の措置がとれるようにしています。

また、血液製剤は人の血液を原料としていることに鑑み、倫理性、国際的公平性等の観点から、国内自給が望ましいとされています。我が国では、採血の対価として金銭を提供することを禁止し、国民のみなさんの善意による「献血」の推進を図り、国内自給の達成に取り組んでいます。

いのちをつなぐ 「アンパン」



りょうすけくんと妹のなっちゃん



神戸・三國セントラルラザ献血ルームで
血の様子（1月27日から「ミント神戸」15

ありがとうの
気持ちがあふれ

平成19年2月1日発行

赤十字新聞から転載

テレビ新広島のHPにも、
りょうすけくんのことが
取り上げられています。

<http://www.tss-tv.co.jp/news/anpan/>

全国の輸血を必要とする患者さんに必要な血液を必要な時に届けることはとても重要です。生命の維持に欠かせない血液を安定的に供給するための施策は血液事業の中心施策のひとつです。

さらに、このような安定供給の観点から、また、患者さんへの血液を介する感染症や副作用等を減らすため、血液製剤の適正な使用が求められているのです。

血液製剤は病院など医療機関という限られた場所で使われており、また、血液製剤の種類によっては、特定

の疾患を持つ患者さんのみに使用されているものもあります。このようなことから、実際には、献血によってどのように人が人を助けているのかは、一般の人からはなかなか見えにくいものです。

ここに紹介するのは、小児がんと闘った4歳の男の子のお話です。輸血のことを「アンパンマンのエキスだ」と言って、人から血液をもらうことに感謝し、病気と果敢に闘ったことが綴られています。

血液事業に携わる関係者は幅広く、国、都道府県や市町村、日本赤十字社をはじめ、血液製剤の製造販売業者、製造業者、販売業者、実際に製剤を使用する医療機関、患者の方々、そして、献血に協力してくださる企業やボランティア、国民のみなさん。このように多くの人々の協力により、血液事業は成り立っています。ひとりでも多くの人を救いたい、そんなひとりひとりの思いがからの血液事業を発展させていくのです。

献血の仕組みについて

献血ができる場所には、お医者さんや看護師さんの他に、呼びかけなどをするボランティアの方がいます。献血には、度でも輸血を受けた人は献血できません。という決まりがありますので、輸血によって生きる力をもつた人が、ボランティアで献血の仕組みを支えていくことが多いのです。



病院に届けるための準備をしています。また、献血をしてもらった血液を成分ごとに分けて目的にあつた輸血用の血液を作つたり、保管したりする大切な役割もあります。



血液センターから血液を受け取る
と患者さんに輸血を行います。病院
では入院をしている人の手術用や、交
通事故などの緊急用に血液が必要に
なるため、血液センターと密接に連
絡を取り合っています。緊急時に備
え、より多くの血液を確保する必要
があるのです。



(平成23年度版「けんけつHOP STEP JUMP(生徒用)」より)